

北海道 釧路市

3市町合併

平成17年10月11日に当時の釧路市、阿寒町、音別町が合併して新生「釧路市」となった。

地域毎の人口

	合併時 (平成17年10月11日現在)	現在 (平成31年3月31日現在)
釧路地域 (旧釧路市)	185,931人	162,329人
阿寒地域 (旧阿寒町)	6,401人	4,615人
音別地域 (旧音別町)	2,763人	1,786人
釧路市計	195,095人	168,730人



運営する公営企業

	病院	上水道	簡易水道	工業用水道	公共下水道	特環下水道	市場	港湾整備	宅地造成	介護サ	農業簡水	駐車場
旧釧路市営	○	○			○		○	○	○			○
旧阿寒町営			○			○					○	
旧音別町営			○	○		○				○		

公営企業の概況

人口（平成29年12月31日現在）

172,391人

市の公営企業の状況

運営する公営企業	会計名	法適用状況	管理者の設置	法適化年月日	業務概況 (H29)		決算規模 (H29)
病院事業	病院事業会計	法適	非設置	昭和39年4月1日	病床数	643床	16,795,638千円
上水道事業	水道事業会計		設置	昭和27年10月1日	年間総配水量	21,226千m ³	6,115,226千円
簡易水道事業				平成19年4月1日			
工業用水道事業	工業用水道事業会計			昭和50年4月19日	年間総配水量	1,618千m ³	40,893千円
公共下水道事業	下水道事業会計			昭和59年4月1日	年間総処理水量	24,660千m ³	6,340,776千円
特定環境保全公共下水道事業				平成19年4月1日	年間総処理水量	2,966千m ³	786,648千円
市場事業	公設地方卸売市場事業会計			非設置	昭和47年4月1日	年間取扱金額	11,102百万円
港湾整備事業	港湾整備事業会計		昭和39年4月1日		荷役機械数	4基	702,368千円
宅地造成事業 (臨海土地造成事業)					上屋棟数	14棟	
				昭和44年12月2日	土地造成総面積	1,733千m ²	386,571千円
介護サービス事業 (老人デイサービスセンター)	介護保険特別会計 (介護サービス事業勘定)	法非適	-	-	年延居宅サービス利用者数	5,886人	82,466千円
簡易水道事業	農業用簡易水道事業特別会計				年間総配水量	71千m ³	15,585千円
駐車場整備事業	駐車場事業特別会計				収容台数	711台	111,665千円

(※) 釧路市設魚揚場事業については、平成31年4月1日より法適用事業から法非適用事業に変更

(注) 決算規模の算出は次のとおりとした。

- ・法適用企業：総費用（税込み）－減価償却費＋資本的支出
- ・法非適用企業：総費用＋資本的支出＋積立金＋繰上充用金

経営比較分析表（平成29年度決算）

北海道釧路市 市立釧路総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	対象	透し未訓方	救臨が感へ災輪
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
172,391	46,668	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 透…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

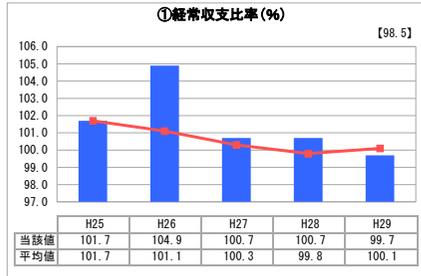
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
535	-	10
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
94	4	643
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
535	-	535

グラフ凡例

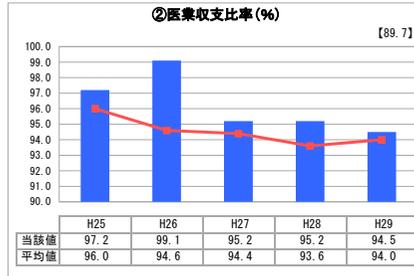
- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)

【】 平成29年度全国平均

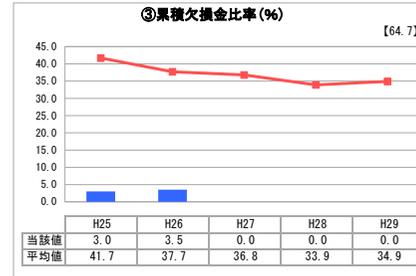
1. 経営の健全性・効率性



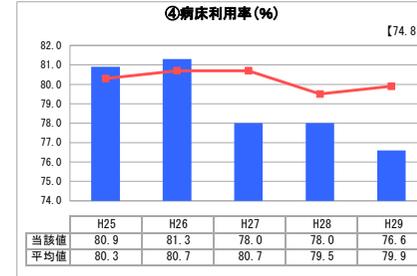
「経常損益」



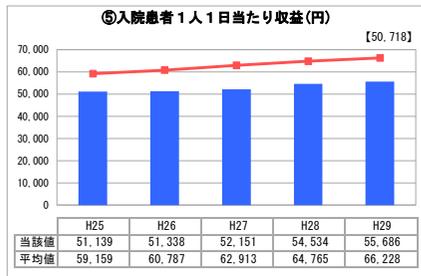
「医業損益」



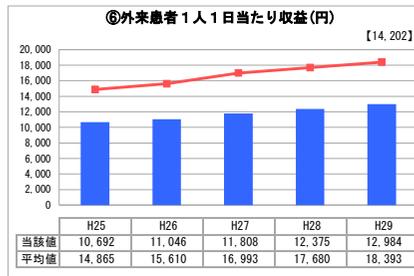
「累積欠損」



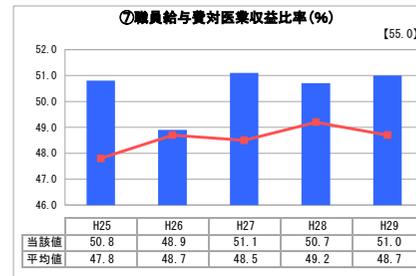
「施設の効率性」



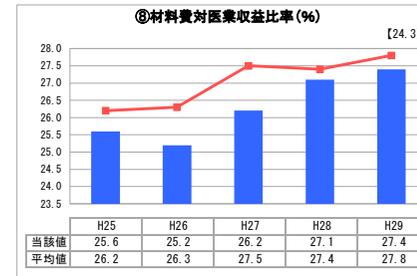
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

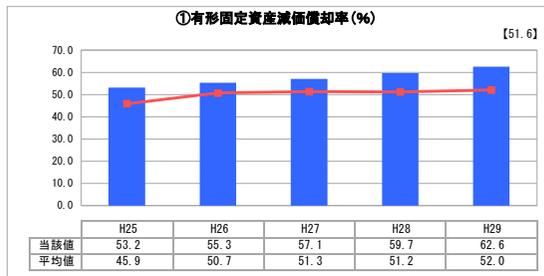


「費用の効率性①」

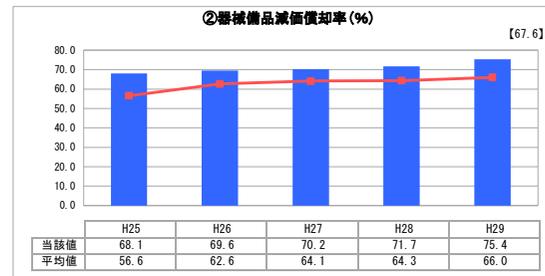


「費用の効率性②」

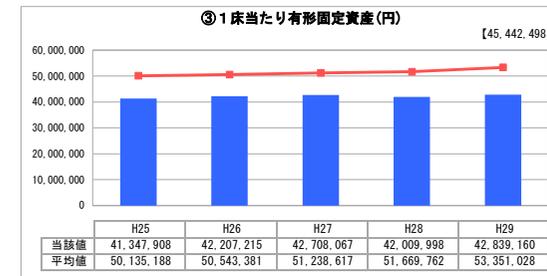
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当院は二次医療圏の地域センター病院、三次医療圏の地方センター病院・救命救急センターとしての高度な急性期医療、公立病院として民間医療機関では提供が困難な不採算・特殊部門に関わる政策医療の提供に努め、地域医療の中核的役割を長きに渡り担ってきている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

職員給与費に相応する診療収入を得られていないことから、職員給与費対医業収益比率が類似団体と比較して高くなっており、経常収支比率が100%を下回る要因となっている。

入院患者及び外来患者1人1日当たり収益の増収対策等を行い、経常収支比率が100%を上回るように効率的な経営をしていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び器械備品減価償却率が、類似団体と比較して高くなっており、更新が遅れている状況にある。これは、建物の更新時期を迎えていることや、器械備品を長く使用していることが要因である。

また、1床当たり有形固定資産が類似団体の平均を下回っているのも同様の理由である。

全体総括

建物や器械備品の老朽化が進んでいるものの、経常収支比率が100%を下回っており、更新費用を経常収益では賄うことが出来ない状況である。

「市立釧路総合病院新改革プラン」に基づき、経営基盤の強化と経営の効率化を引き続き行っていく必要がある。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成29年度決算）

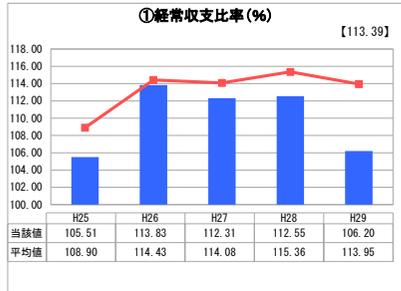
北海道 釧路市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20 ³ 当たり家産料金(円)	
-	50.98	99.34	3,225	

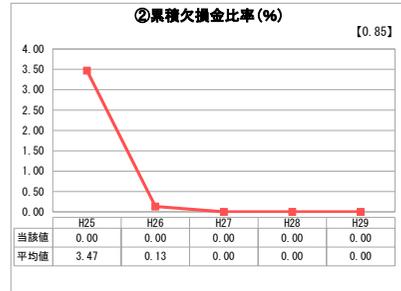
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
172,391	1,362.90	126.49
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
186,389	136.67	1,363.79

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

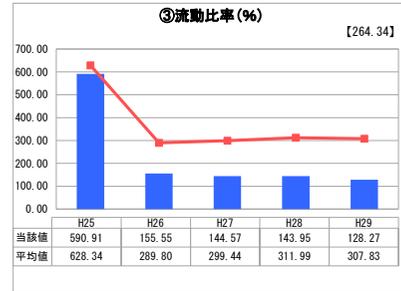
1. 経営の健全性・効率性



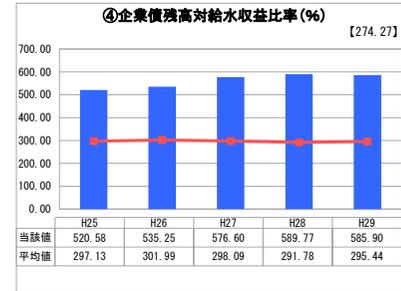
「経常損益」



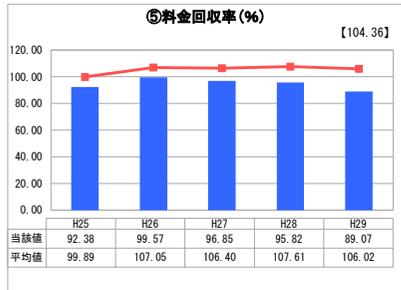
「累積欠損」



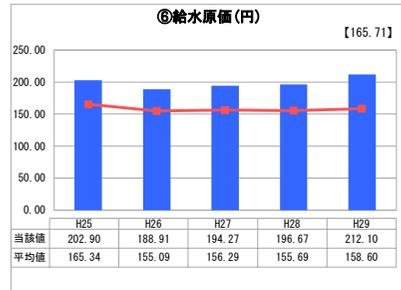
「支払能力」



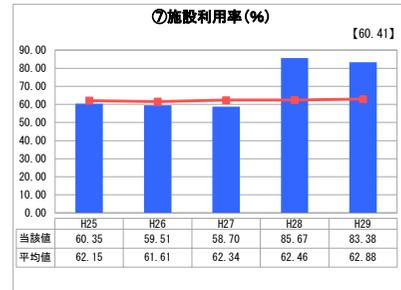
「債務残高」



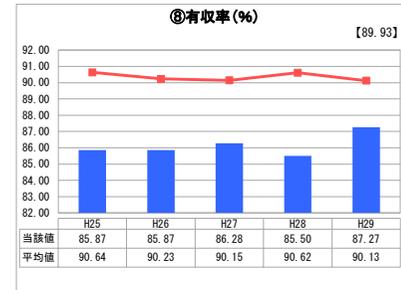
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
平均値を下回っているが100%を上回っており、経常収支が黒字であることを表している。
- ② 累積欠損金比率
累積欠損金が発生していない。
- ③ 流動比率
平均値を下回っているが100%を上回っており、短期的な債務に対する支払能力があると言える。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
前年度と比べて減少したが平均値を上回っている。今後は老朽化した施設・設備の更新等により上昇する見込みになっている。
- ⑤ 料金回収率
平均値を下回っている。また、100%を下回っており、費用を料金収入で賄っていない状態にある。
- ⑥ 給水原価
平均値を上回っている。浄水場における維持管理費の増等により前年度と比べて上昇した。
- ⑦ 施設利用率
平成28年度に水道事業変更認可を受け、一日配水能力を変更したことにより施設利用率が上昇した。平均値を上回っており適切な施設規模といえる。
- ⑧ 有収率
平均値を下回っている。今後も漏水の多い地域において重点的に漏水調査を実施するなどして有収率の改善を図っていく。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
平均値を下回っており、保有資産の更新が類似団体よりも進んでいる状況である。
- ② 管路経年率
平均値を上回っている。1970年から80年代に集中的に整備された管路が一斉に更新時期を迎える状況にある。
- ③ 管路更新率
平均値を下回っている。漏水等により市民生活に与える影響が大きい幹線配水管路の更新を優先的にしている。

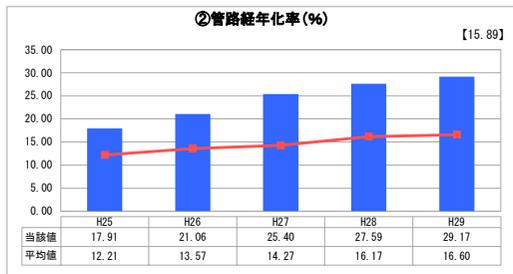
全体総括

1. 経営の健全性・効率性について
経常収支比率は100%を上回り累積欠損金は発生していないが、各指標において平均値に比べて厳しい数値となっている。今後、老朽化の進む施設等の更新費用が増加する見込みであり、経営状況はより厳しさを増すものと予想される。
2. 老朽化の状況について
有形固定資産減価償却率は平均値を下回っている。施設・設備の更新は進んでいるが、管路経年率及び管路更新率が、平均値と比べて厳しい数値となっている。なお、平成27年1月に策定した「釧路市水道管路更新基本方針」に基づき、長期的な視野に立った計画的な取組を実施し、健全性・効率性の高い管路更新事業に努めていることとしている。

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成29年度決算）

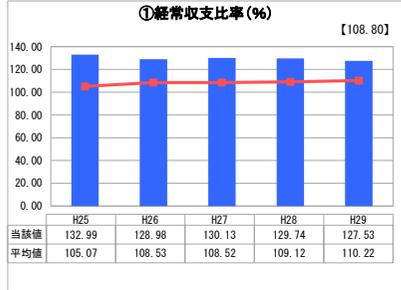
北海道 釧路市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ad	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	62.38	95.35	65.73	4,421

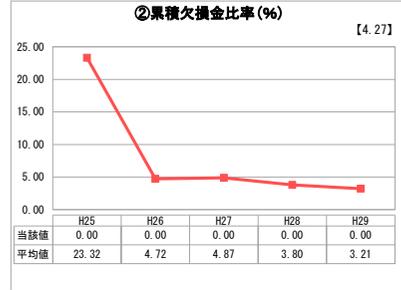
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
172,391	1,362.90	126.49
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
162,989	41.66	3,912.36

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



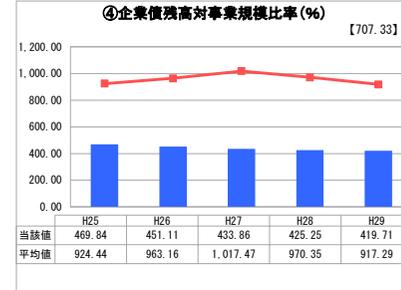
「経常損益」



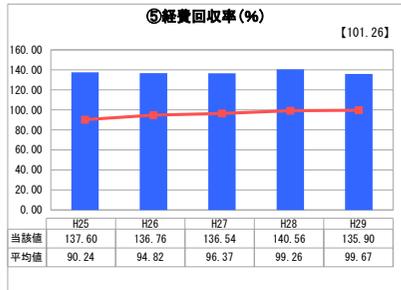
「累積欠損」



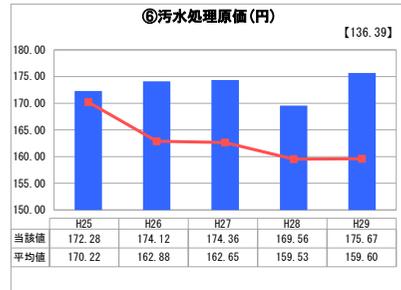
「支払能力」



「債務残高」



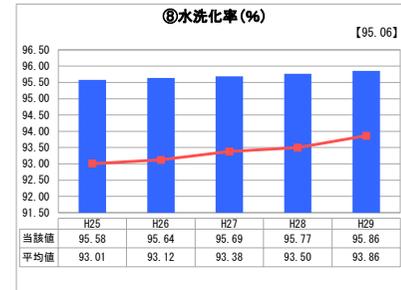
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

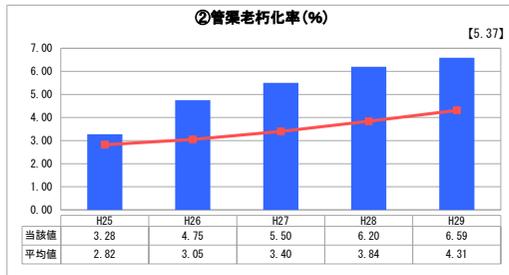


「使用料対象の捕捉」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
平均値及び100%を上回っており、経常収支が黒字であることを表している。
- ② 累積欠損金比率
累積欠損金は発生していない。
- ③ 流動比率
資金不足が発生しており、一時借入金があるため平均値を下回り低率となっている。
- ④ 企業債残高対事業規模比率
平均値を下回っている。今後企業債残高の減少により、数値の低下は続いていく見込みである。
- ⑤ 経費回収率
平均値及び100%を上回っているが、老朽化施設の更新等に充てる財源を確保する必要性が高まっている。
- ⑥ 汚水処理原価
平均値を上回っており、維持管理に係る経費負担の増により前年度に比べて増加した。
- ⑦ 施設利用率
平均値を下回っており、施設更新時にダウンサイジング等を検討する必要がある。
- ⑧ 水洗化率
平均値を上回っており、近年は微増を続けている。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
平均値を上回っており、保有資産の更新が類似団体よりも進んでいない状況にある。
- ② 管渠老朽化率
平均値を上回っており、法定耐用年数を超えた管渠延長の割合が類似団体よりも高い状況にある。
- ③ 管渠改善率
平均値を下回っており、管渠における更新延長の割合が類似団体よりも低く、改善が進んでいない状況にある。

全体総括

1. 経営の健全性・効率性について
経常収支は黒字を確保できる見込みである。安定した経営状況と云えるが、今後、管渠や施設等の老朽化が進んでいく中で、更新等に充てる財源を確保する必要性は高まると考えられる。資金不足額については、計画どおり2021年度までに解消するため、引き続き経営の健全性・効率性を高める必要がある。
2. 老朽化の状況について
管渠は老朽化しているが、改善が進んでいない状況にある。今後は、管渠を含めた老朽施設等の中長期的な更新計画を策定し、計画的に更新を実施していく予定である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成29年度決算）

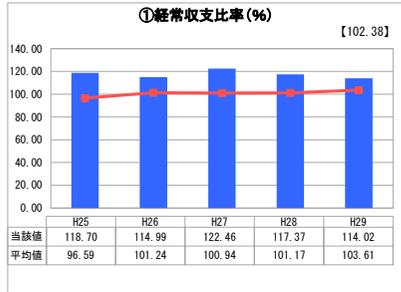
北海道 釧路市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	70.76	3.13	27.22	4,421

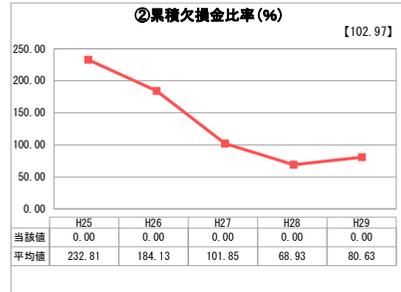
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
172,391	1,362.90	126.49
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,348	3.76	1,422.34

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

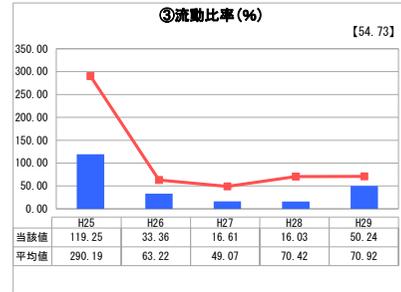
1. 経営の健全性・効率性



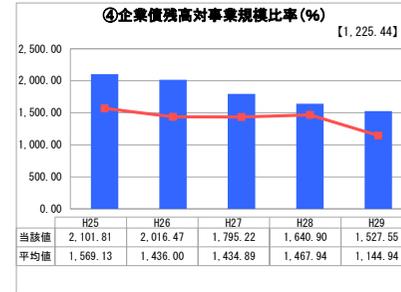
「経常損益」



「累積欠損」



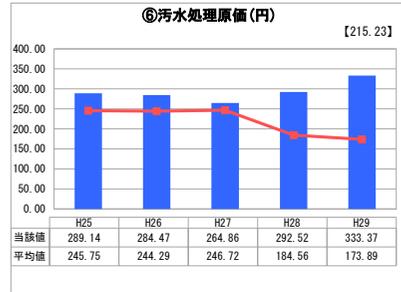
「支払能力」



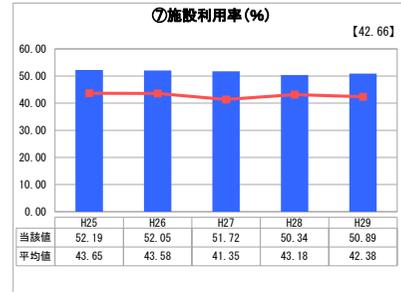
「債務残高」



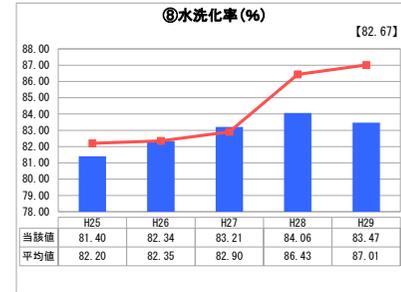
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

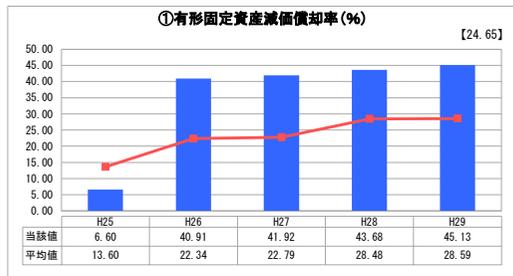


「施設の効率性」

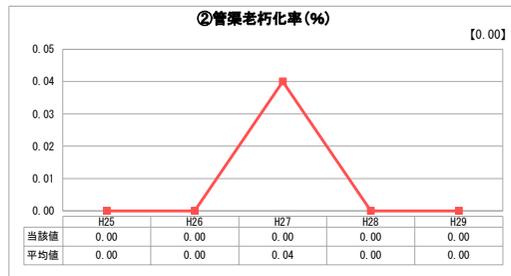


「使用料対象の捕捉」

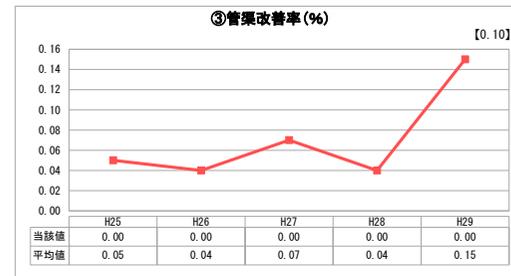
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
平均値及び100%を上回っており、経常収支が黒字であることを表している。
- ②累積欠損金比率
累積欠損金は発生していない。
- ③流動比率
平均値を下回っており、流動負債が流動資産を大きく上回っていることを表している。
- ④企業債残高対事業規模比率
平均値を上回っている。今後も企業債残高の減少により、数値の低下は続いている見込みである。
- ⑤経費回収率
平均値を下回っており100%に達していないため、費用を使用料で賄っていない状態にある。
- ⑥汚水処理原価
平均値を上回っている。処理場費における維持管理費の増などにより増加した。
- ⑦施設利用率
平均値を上回っており、類似団体に比べて施設の利用状況が高い状況にある。
- ⑧水洗化率
上昇傾向にあるものの、平均値を下回っているため、引き続き水洗化率向上の取組が必要である。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
平均値を上回っており、保有資産の更新が類似団体よりも進んでいない状況である。
- ②管渠老朽化率
法定耐用年数を超えた管渠がないため0%となっている。
- ③管渠改善率
法定耐用年数を超えた管渠がないため0%となっている。

全体総括

1. 経営の健全性・効率性について
経常収支は黒字を確保できる見込みであり、安定した経営状況と見える。経費回収率が100%に達していないため、不足分には一般会計からの繰入金が必要とされている状況であり、引き続き経営の健全性・効率性を高めていく必要がある。
2. 老朽化の状況について
施設の老朽化は進んでいないが、保有資産の状況を適切に管理し、中長期的な更新計画を策定する予定である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成29年度決算）

北海道 釧路市

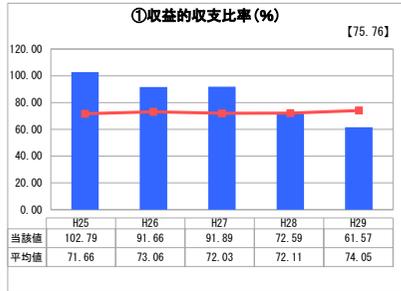
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	該当数値なし	0.10	3,226	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
172,391	1,362.90	126.49
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
166	14.56	11.40

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



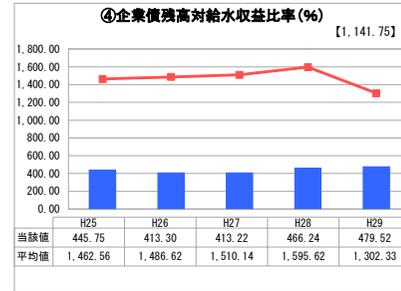
「単年度の収支」



「累積欠損」



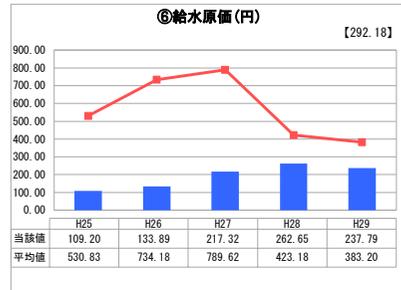
「支払能力」



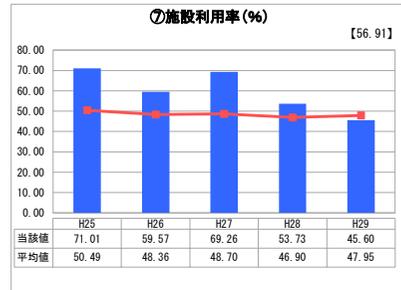
「債務残高」



「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

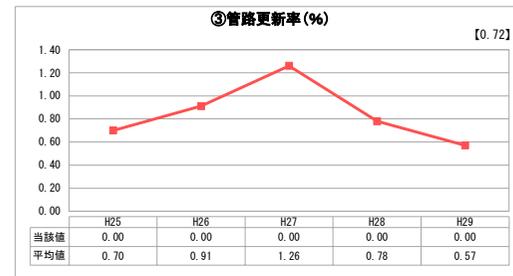
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

現状、給水収益により経営を賄っているが、近年老朽化による配水本管での漏水工事費が増加傾向にあり、また、施設整備に係る地方債償還金の支出により、一般会計からの繰入金により不足分を補っている。
今後、経費の削減や水道料金改定の検討など経営改善に努めたい。

2. 老朽化の状況について

浄水場施設整備については、補助事業を活用しながら進めているところであるが、管路の整備(更新)が滞っていることから、今後計画的な整備が必要であり、有収率の向上に努めたい。

全体総括

本事業の施設(管路を含む)については、経年化率が高くなっていることから、経営の健全性と効率性を高めるため、公営企業会計への移行を進めるとともに、整備計画を策定するなどの早急な対応が必要である。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成29年度決算）

北海道釧路市 釧路河畔駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 3 B 1	非設置
自己資本構成比率 (%)	種類	構造	建設後の経過年数 (年)	
該当数値なし	都市計画駐車場 届出駐車場	広場式	17	

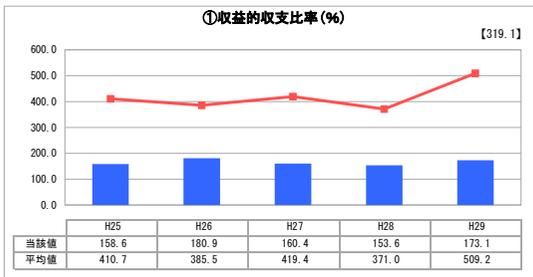
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積 (㎡)
商業施設	有	5,700
収容台数 (台)	一時間当たりの基本料金 (円)	指定管理者制度の導入
202	220	代行制

グラフ凡例

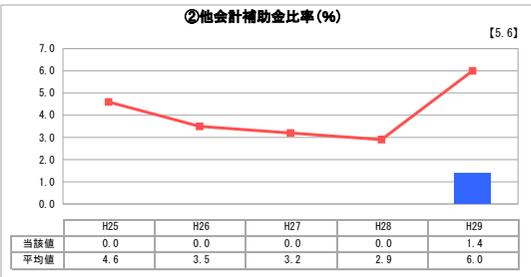
- 当該施設値 (当該値)
- 類似施設平均値 (平均値)

【】 平成29年度全国平均

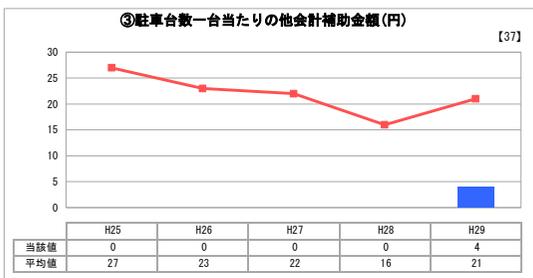
1. 収益等の状況



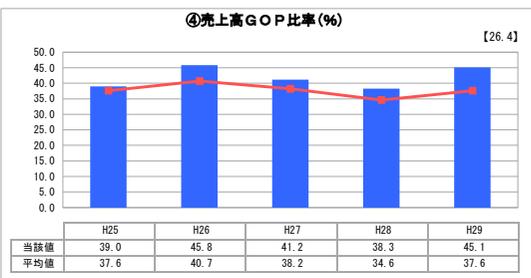
「経常損益」



「他会計補助金割合」

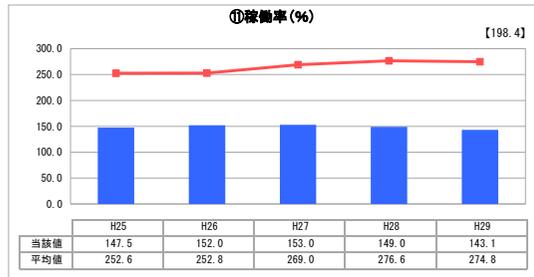


「他会計補助金額」

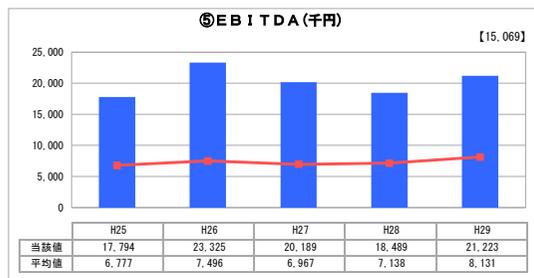


「売上高に対する営業総利益」

3. 利用の状況



「施設の効率性」



「減価償却前営業利益」

2. 資産等の状況



「施設全体の減価償却の状況」

⑦敷地の地価 (千円)

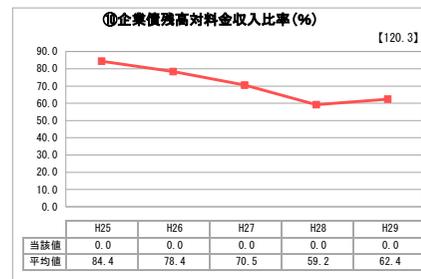
186,877

⑧設備投資見込額 (千円)

5,541



「累積欠損」



「債務残高」

分析欄

- 1. 収益等の状況について**
- 収益的収支比率
平均値を下回ってはいるが、数値が100%以上となり、単年度の収支が黒字であることを表している。また、都心部まちづくりの推進に伴い、駐車場の利用増加が見込まれていることから、今後も健全経営に努める。
 - 他会計補助金比率
臨時的な繰入金であり、一般会計からの繰入金等への依存度は小さい。
 - 駐車台数一台当たりの他会計補助金額
臨時的な繰入金であり、一般会計からの繰入金等への依存度は小さい。
 - 売上高GOP比率
修繕費等の減少に伴い、数値が増加しており、平均値を上回っている。
 - EBITDA
修繕費等の減少に伴い、数値が増加しており、平均値を上回っている。
- 2. 資産等の状況について**
- 敷地の地価
駐車場用地周辺の地価との比較において数値は低くなっている。
 - 設備投資見込額
駐車場機器等の更新が必要であり、耐久状況を見ながら適切な時期に設備投資を実施していく必要がある。
 - 企業債残高対料金収入比率
企業債残高がないことから0%となっている。

3. 利用の状況について

- 稼働率
平均値を下回ってはいるが、市民のほか観光客等地域外からの来訪者による一定の利用を維持している。

全体総括

本施設については、単年度の収支が黒字であり、一定の利用を維持している。また、都心部まちづくりの推進に伴い、駐車場の利用増加が見込まれていることから、今後も健全経営に努める。経営戦略については、平成32年度までに策定を目指す。

経営比較分析表（平成29年度決算）

北海道釧路市 釧路鋪町駐車場

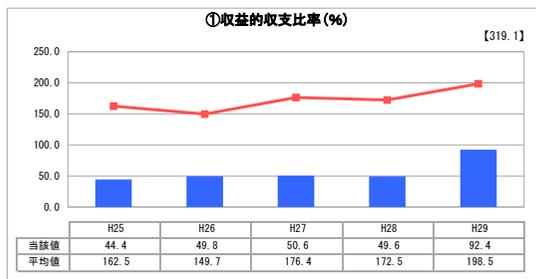
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 1 B 2	非設置
自己資本構成比率 (%)	種類	構造	建設後の経過年数 (年)	
該当数値なし	都市計画駐車場 届出駐車場	立体式	20	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積 (㎡)
公共施設	有	12,740
収容台数 (台)	一時間当たりの基本料金 (円)	指定管理者制度の導入
509	220	代行制

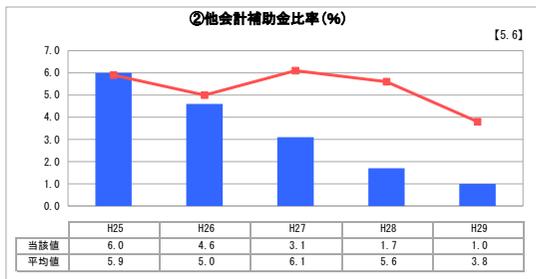
グラフ凡例

- 当該施設値 (当該値)
- 類似施設平均値 (平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

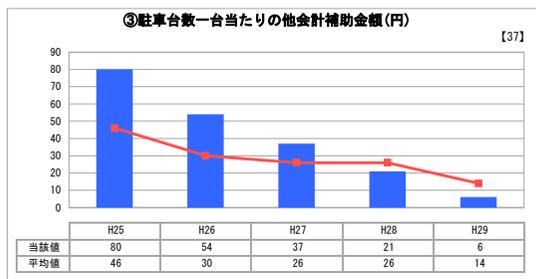
1. 収益等の状況



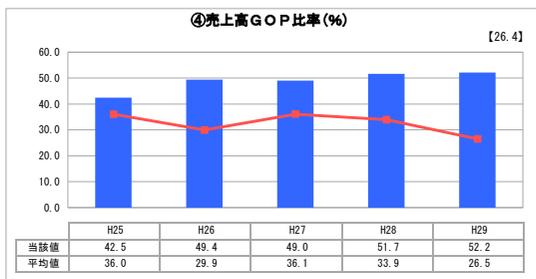
「経常損益」



「他会計補助金割合」

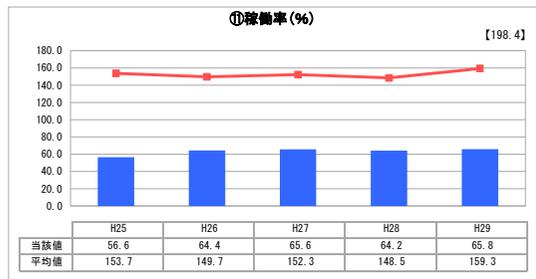


「他会計補助金額」

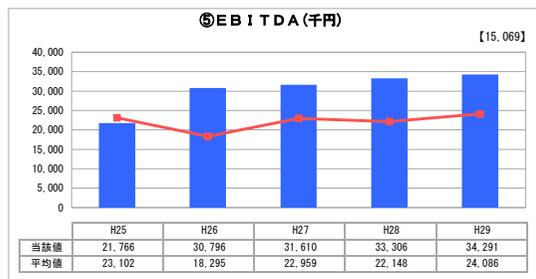


「売上高に対する営業総利益」

3. 利用の状況



「施設の効率性」



「減価償却前営業利益」

2. 資産等の状況



「施設全体の減価償却の状況」

⑦敷地の地価 (千円)

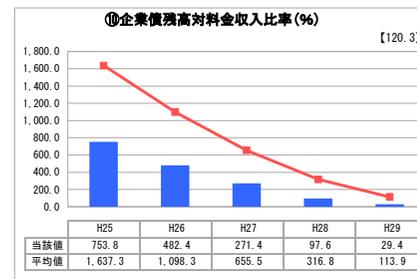
75,801

⑧設備投資見込額 (千円)

51,566



「累積欠損」



「債務残高」

分析欄

1. 収益等の状況について

①収益的収支比率
H31年度まで企業債の償還が続き、数値が100%未満で平均値を下回っており、単年度の収支が赤字であることを表している。

②他会計補助金比率
繰出基準に基づく繰入金であり、一般会計からの繰入金等への依存度は小さい。

③駐車台数一台当たりの他会計補助金額
繰出基準に基づく繰入金であり、一般会計からの繰入金等への依存度は小さい。

④売上高GOP比率
料金収入等の増加に伴い、数値が増加傾向であり、平均値を上回っている。

⑤EBITDA
料金収入等の増加に伴い、数値が増加傾向であり、平均値を上回っている。

2. 資産等の状況について

⑦敷地の地価
駐車場用地周辺の地価との比較において数値は低くなっている。

⑧設備投資見込額
建設から20年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいることから、耐久状況を見ながら適切な時期に設備投資を実施していく必要がある。

⑩企業債残高対料金収入比率
数値が減少傾向にあり、平均値を下回っていることから、企業債残高の規模は小さい。

3. 利用の状況について

①稼働率
平均値を下回ってはいるが、市民のほか観光客等地域外からの来訪者による一定の利用を維持している。

全体総括

本施設については、一定の利用を維持しており、H31年度に企業債の償還が完了することから、以降は収支が改善する予定である。また、都心部まちづくりの推進に伴い、駐車場の利用増加が見込まれていることから、今後も健全経営に努める。

経営戦略については、平成32年度までに策定を目指す。